

1. 取締役の選任に関する考え方

三菱商事では、取締役の選任方針を次の通り定めております。

また、個別の人事案については、独立役員を中心とするガバナンス・指名・報酬委員会で審議の上、取締役会で決定することとしています。

【取締役の選任方針】

三菱商事の取締役は、広範な分野で多角的な事業を行う総合商社の適切な意思決定・経営監督の実現を図るため、社内及び社外それぞれから、豊富な経験、高い見識、高度な専門性を有する者を複数選任することとしています。

具体的には、取締役（社内）は、取締役会議長を務める取締役会長、業務執行の最高責任者である社長のほか、全社経営を担う執行役員・コーポレートを担当する執行役員等の中から選任し、また、社外取締役は、企業経営者としての豊富な経験に基づく、実践的な視点を持つ者、及び世界情勢、社会・経済動向等に関する高い見識に基づく、客観的かつ専門的な視点を持つ者から複数選任することとしています。

2. 取締役候補者の個別の選任理由

	氏名	選任理由
社内	小林 健 (再任)	プラント事業や船舶・交通・宇宙航空事業等の機械関連事業及び新産業金融事業に従事し、シンガポール支店長や新産業金融事業グループ CEO 等の要職を経て、平成 22 年 6 月から約 6 年間、社長として三菱商事の企業価値向上に貢献してきました。 平成 28 年 4 月から取締役会長として、非業務執行の立場から経営の監督機能を担っており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般、グローバルな事業経営及び管理・運営業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者となりました。
	垣内 威彦 (再任)	農水産事業等の生活産業関連事業に従事し、また、オーストラリア在勤時には事業投資先の企業価値向上に貢献してきました。その後、生活産業グループ CEO 等の要職を経て、平成 28 年 4 月から業務執行の最高責任者である社長を務めております。現在は、事業を通じて「経済価値」「社会価値」「環境価値」の三価値を同時に実現すべく「中期経営戦略 2018」を推進しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般、グローバルな事業経営及び管理・運営業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者となりました。

	氏名	選任理由
社内	西浦 完司 (新任)	鉄鋼製品事業、金属資源事業等の金属関連事業に従事し、平成 28 年 4 月から金属グループ CEO を務め、世界市場に対する良質で競争力の高い製品、金属資源の安定供給に貢献してきました。現在は、コーポレート担当役員（業務、調査、経済協力、ロジスティクス総括）（兼）アジア・大洋州統括として、グローバルな事業展開の取組を推進しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般、グローバルな事業経営及び管理・運營業務に関する知見を有していることから、取締役候補者となりました。
	増 一行 (再任)	財務・会計関連業務に従事し、主計部長等の要職を経て、平成 28 年 4 月から最高財務責任者である CFO を務め、また、平成 29 年 4 月から IT 分野も管掌しております。現在は、コーポレート担当役員（CFO、IT）として、成長投資の足場となる盤石な財務体質の構築を推進し、財務・会計、IT 分野において三菱商事の企業価値向上に貢献しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般及び管理・運營業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者となりました。
	戸出 巖 (再任)	原料炭を始めとした鉄鋼原料事業等の金属関連事業や経営企画・事業投資関連のコーポレート業務に従事し、また、平成 26 年 4 月から鉄鋼製品の流通・加工関連の事業投資先の代表取締役社長として同社の企業価値向上に貢献してきました。現在は、コーポレート担当役員（事業投資総括、サステナビリティ推進、AI/IoT 推進）として、事業経営への進化を遂げる上で重要な事業投資、サステナビリティ、AI/IoT への取組を推進しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般及び事業経営・管理業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者となりました。
	村越 晃 (再任)	資材事業等の生活産業関連事業に従事し、平成 26 年 4 月から泰国三菱商事会社の社長として、同国における三菱商事グループの競争力の最大化に貢献してきました。現在は、コーポレート担当役員（広報、人事）として、コーポレートブランディング、経営人材の育成への取組を推進しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般及び管理・運營業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者となりました。

	氏名	選任理由
社内	榊田 雅和 (再任)	機械関連事業に従事し、平成 25 年 4 月からインド三菱商事会社の社長として、成長が続く同国の内需取り込みや投資の拡大に貢献してきました。現在は、コーポレート担当役員（総務、法務）として、三菱商事のガバナンス強化を推進するほか、チーフ・コンプライアンス・オフィサーとして三菱商事グループにおけるコンプライアンス体制の強化・自立化を推進し、また、緊急危機対策本部長（国内外・新興感染症、コンプライアンス）として、連結ベースでの危機管理体制の強化を推進しており、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般及び管理・運営業務に関する知見を有していることから、引き続き取締役候補者としました。
	鴨脚 光眞 (新任)	財務・会計関連業務に従事し、また、国内外の事業投資先へ出向し、企業価値向上に貢献してきました。その後、事業投資総括部長等の要職を経て、現在は、コーポレート担当役員（国内）（兼）関西支社長として、三菱商事の国内拠点における連結ベースでの事業推進に取り組んでおり、三菱商事における豊富な業務経験と、当社の経営全般及び事業経営・管理業務に関する知見を有していることから、取締役候補者としました。

	氏名	選任理由
社 外	西山 昭彦 (再任)	大学における企業経営・人材育成等に関する研究活動や、長年にわたる実業界での経験をもとに、客観的・専門的な視点から、三菱商事の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を行っており、引き続き社外取締役候補者となりました。
	大宮 英明 (再任)	三菱重工業（株）の取締役社長・取締役会長を務め、世界各地で事業を展開するメーカーの経営を通じて培われた高い見識をもとに、実践的な視点から、三菱商事の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を行っており、引き続き社外取締役候補者となりました。
	岡 俊子 (再任)	長年にわたるコンサルティング業界での経験や、様々な企業での社外役員としての経験をもとに、実践的・多角的な視点から、三菱商事の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を行っており、引き続き社外取締役候補者となりました。
	齋木 昭隆 (再任)	外務省において要職を歴任し、外交を通じて培われた国際感覚や世界情勢等に関する高い見識をもとに、客観的・専門的な視点から、三菱商事の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を行っており、引き続き社外取締役候補者となりました。
	立岡 恒良 (新任)	経済産業省等において要職を歴任し、国内外の経済の動向に関する高い見識をもとに、客観的・専門的な視点から、三菱商事の経営への助言や業務執行に対する適切な監督を行うことができると判断し、社外取締役候補者となりました。

以 上